

初案(190917時点)

# 砂防事業促進議員連盟 立山カルデラ砂防事業現地視察



立山砂防事務所砂防工事専用軌道乗り場前にて

令和元年9月9日

## 視察概要

- 【日時】 令和元年 9月9日(月)
- 【場所】 富山県立山町 立山カルデラ砂防事業(常願寺川水系直轄砂防事業)
- 【参加者】 会長 衆議院議員 鈴木俊一、会長代理 衆議院議員 古屋圭司、  
 幹事 衆議院議員 金子恭之、幹事 衆議院議員 谷 公一  
 衆議院議員 坂本哲志、衆議院議員 奥野信亮、衆議院議員 田畑裕明  
 衆議院議員 務台俊介、衆議院議員 高村正大、参議院議員 堂故 茂
- 【現地説明】 国土交通省 水管理・国土保全局 砂防部 三上砂防計画課長  
 北陸地方整備局 吉岡局長、田部河川部長  
 立山砂防事務所 野呂事務所長  
 富山県 森田砂防課長

## 視察行程(ルート)



## 主な視察箇所



本堰堤高が63mと現役の堰堤では日本一



1858年飛越地震により発生した崩壊地で日本3大崩れのひとつ

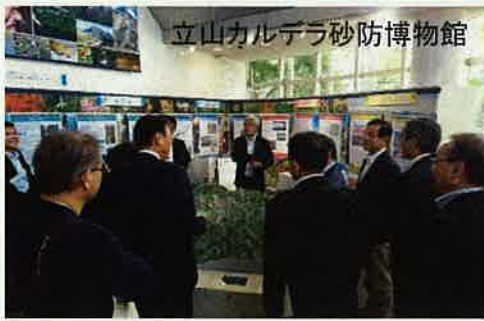


計20基の砂防堰堤が階段状に配置



崩壊地を情景を表した幸田文さんの著書「崩れ」の文学碑

## 視察状況



立山カルデラ砂防博物館



砂防工事専用軌道



鷹崩れ(崩壊地)



無人化施工工事現場



白岩砂防堰堤



鷹崩れ(崩壊地)

### 鈴木会長 挨拶

昨年は3,459件の土砂災害が発生し、集計開始以来最多となりました。毎年国内各所で土砂災害が発生しており、尊い人命が奪われるだけでなく、ライフラインや道路などの被災により、地域住民の生活や経済に大きな影響が生じています。今回の現地視察は、日本の砂防を代表する「立山砂防」を現地で直接ご確認頂き、改めて土砂災害対策について熟慮する大変貴重な機会と考えています。

### 参加議員の主な所感

常願寺川流域は、急峻な流れや1858年の飛越地震（大崩壊）により大量の土砂が堆積した日本でも最も危険な流域。一方、100年以上続く砂防事業により下流域の安全が確保されており、現場で働く方々の苦労を改めて認識。日本の誇る「砂防技術」には多くの先人の努力の積み重ねがあったからこそと考える。（古屋議員）

日本の砂防事業を代表する立山砂防をかねてより視察したいと思っていたが、期待を超えるスケールの大きな現場。非常に中身の濃い現場視察になった。（金子議員）

立山砂防初代所長であった赤木正雄先生の生家は地元兵庫県にあり、いつか立山を訪れなければと思っていた。今回、その思いが実現し感慨深い。（谷議員）

極めて高い技術で高低差のある流域に砂防ダムがつくられている。当時の我が国の防災にかける意気込みの強さを感じた。災害防止のため懸命に働いてきた先人の偉大さを痛感。（坂本議員）

立山カルデラに今なお残る2億m<sup>3</sup>とは想像を絶する量であり、対策にも相当の苦労が伴うものと思われる。そのような現場で粛々と事業が進められており感心。（奥野議員）

重機の自動運転により、オペレーターが遠隔操作で施工することで工事中の危険を回避。豪雪により半年間しかない工事期間に必死で業務に取り組む現場の職人や共に安全施工を管理する国交省職員の連携具合も素晴らしい。（田畑議員）

立山は火山性のもろい地質であり、どこが崩れても不思議ではない厳しい現場条件であるが、しっかりと対策を講じてくれている。砂防施設が重要文化財に指定されているのも素晴らしい。（務台議員）

天災を避ける事は出来ないが、防災で備える事は出来る。日本は急峻な山から急激に水が流れる地域が多く、欧米の様に緩やかな川ばかりではないため、治水にコストはかかる。国民の生命と財産を守る為に、しっかりと頑張っていく必要性を改めて認識。（高村議員）

氷見市長時代、市内で大規模な地すべりが発生し対応に苦慮。その時には、県砂防課に地すべりの調査、監視、対策など適切に対応頂いたが、今回の視察を通じて改めて砂防技術の重要性を実感。（堂故議員）

## 立山カルデラで活躍する無人化施工技術

### 有峰地区溪岸対策工事

平成23年8月に有峰二の谷にて斜面崩壊に伴う土石流が発生し、溪流内に多くの不安定土砂が堆積、残存した。砂防堰堤等の工事にあたっては、これら不安定な土砂による二次被害を回避し作業員の安全を確保するため、最新の無人化施工技術を活用。最近でも、工事施工中に土石流の発生が確認されている。



平成23年の土石流発生状況



昨月(8月)に発生した土石流



土石流発生前



遠隔操作室



無人化施工機械



土石流発生後

## 文化・歴史的価値を認められた立山砂防の重要文化財

### 重要文化財『常願寺川砂防堰堤群』

常願寺川の砂防施設は、常願寺川水系を一体的に治める治水対策の礎となった施設であり、我が国の治水上、高い価値を有すると評価され、平成21年に白岩砂防堰堤が重要文化財に指定された(現役の砂防施設では国内最初の指定)。更に、平成29年には本宮砂防堰堤と泥谷砂防堰堤群が追加で重要文化財に指定され、当時の高い建設技術とともに、その文化的、歴史的価値が認められている。



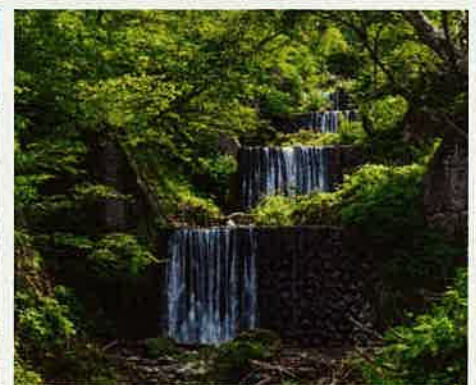
白岩砂防堰堤

昭和14年竣工。立山カルデラからの土砂流出を抑制する基幹堰堤であり、本堰堤高が63mと現役の堰堤では我が国随一の高さ。



本宮砂防堰堤

昭和11年竣工。建設当時、砂礫基礎上に築かれた最大規模の堰堤であり、現在でも国内最大クラスの土砂貯砂量を誇る。



泥谷砂防堰堤群

昭和13年竣工。崩壊斜面上の侵食や崩壊の拡大を防ぐために建設された計20基(指定は19基)の堰堤群であり、崩壊斜面の植生回復にも寄与。